

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	農産園芸課長 森上 浩平	電話番号	0852-22-5123
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	農業環境対策事業		
目的	(1) 対象	農家・農薬販売者・使用者	
	(2) 意図	○病害虫の発生を的確に把握することで、病害虫発生の予防・拡大防止に努める。 ○農薬の適正販売・使用の確保を推進することにより、農業生産の安定、県民の健康保護及び生活環境の保全を図る。	
事業概要	○農作物への有害な病害虫の発生を未然に防ぐため、農家に対して、発生予察情報を提供する。 ○農薬の適正販売・使用を確保するため、販売者・使用者に対して、指導・啓発を行う。		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	農薬の安全使用・管理を推進する指導者の人数	目標値	797.0	798.0	799.0	800.0	人
	式・定義	農薬管理指導士の認定者数	取組目標値					
			実績値	795.0				
			達成率	-	-	-	-	%
2	指標名		目標値					
	式・定義		取組目標値					
			実績値					
			達成率	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b)(千円)	5,593	5,938
うち一般財源(千円)	1,512	1,616

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

○主要病害虫の発生時期や発生量を取りまとめた「病害虫発生予察情報」を8回発表し、また、特に発生の多い病害については「注意報」を3回発表した。いずれもメールまたはファクシミリにより関係先へ送信した。
 ○農薬の安全使用・管理を推進する指導者を育成するため、農薬管理指導士認定研修を実施し、新たに49名の指導士を認定した。
 ○26年度に農薬の新たな安全性評価基準として短期暴露評価の考え方が導入され、27年度末で13成分の農薬の使用方法が変更になった。
 ○航空法の改正により、無人航空機による空中散布する際には、国土交通大臣の事前許可・承認が必要となった。
 ○食品衛生法の残留農薬基準値超過事例等、農薬の使用に係る問題が発生したことから、JA営農指導員を対象に啓発を行った。

6. 成果があったこと(改善されたこと)

○県内全域で病害虫の発生予察を行った結果、農作物の生産・出荷に大きな影響を与える被害の発生はなかった。
 ○短期暴露評価の導入による農薬登録の変更については、農薬管理指導士研修会、農薬卸商組合の研修や、農薬指導者への定期的なメール発信により情報提供を行った。
 ○無人航空機の前許可・承認については、オペレーター研修会での情報提供により、理解が進み、手続を円滑に実施した。

7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

①困っている「状況」
 農業経験が浅い使用者、生産者団体に属さない農薬使用者を中心に、農薬使用者全般に農薬の使用方法の理解が十分浸透しているとはいえない状況にある。
 ②困っている状況が発生している「原因」
 生産者団体に属さない農薬使用者は、定期的に情報が得られる場が限られる。そうした農薬使用者に対して、県からの情報伝達手段が限られる(県のHPや農薬販売店を通じた情報提供)
 ③原因を解消するための「課題」
 農薬使用者にとっては販売店が情報の入手先として最も期待される場所だが、販売店により手段や情報量に差があるものと考えられる。
 生産者団体に属さないが、農産物の販売実績がある農薬使用者の把握と情報提供が必要。

8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

○生産者団体に属さない農薬使用者の把握と、対象農家に応じた情報提供の検討(農薬販売者向け情報提供強化、直売所出荷者・市場へ直接出荷する者への啓発)
 ○有害病害虫の発生防止を目的とした病害虫の発生予察の継続。
 ○農薬の最新情報の迅速な提供を目的とした「農薬情報検索システム」の継続。
 ○農薬の安全使用・管理を推進する指導者(農薬管理指導士)の育成の継続。

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。
 ・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価(任意記載)